

趣旨説明

静かならざるマジョリティー —インドにおける農民運動、非バラモン ／ドラヴィダ運動、ダリト運動の展開

FINDAS研究会・インド社会運動研究会
2011年11月23日（水）外大サテライト
石坂晋哉

科研「ポストコロニアル・インドにおける 社会運動と民主主義」について

- ◎ メンバー
 - ・ 石坂、木村、志賀、小嶋、舟橋、石井、杉本、中溝、松尾、山本
- ◎ 先行研究の問題点
 - ・ 個別事例分析の蓄積はあるが「インド社会運動史」（≠インド政治史、インド政治経済史）がない
 - ・ 対象と関心の偏り（例：北東部の運動や暴力闘争や非インド市民の運動等についての研究蓄積／との研究交流の少なさ、貧困＝階級＝再分配をめぐるイシューへの過度の執着）
- ◎ 本科研のねらい
 - ① インド社会運動の植民地期以来の連続的展開を捉える
 - ② 計量分析の手法を導入
 - ③ インドにおける社会運動と民主主義をめぐる理論化（制度と運動、運動間関係）

2

今回の研究会の趣旨

- ◎ 全体テーマ
 - ・ 静かならざるマジョリティー—インドにおける農民運動、非バラモン／ドラヴィダ運動、ダリト運動の展開
 - ・ (Unquiet Majorities: Peasant Movement, Non-Brahmin/Dravidian Movement and Dalit Movement in India)
- ◎ 趣旨
 - ・ 本研究会では、「抑圧や搾取の状況を覆すために諸集団が結束し、一部のエリートに支配に対抗して数の上で多数派を形成し、諸種の要求を掲げるようになる」という構図をとるタイプの社会運動が、20世紀のインドにおける民主主義の発展においていかなる意味をもったかについて検討したい。具体的な事例としては、（農村社会としてのインドにおける）農民運動、（南インドにおける）非バラモン／ドラヴィダ運動、（ヒンドゥー上位カーストによる差別とたたかう）ダリト運動をとりあげる。

3

趣旨について

- ◎ Silent Majority vs. Vocal (Noisy) Minority
 - ・ 1969年11月3日ニクソン大統領の演説：
 - ・ 「ベトナム反戦運動に参加していない大多数の米国民は戦争を支持している」
 - ・ インドの環境運動家バフグナー
 - ・ 「われわれ活動家は、サイレント・マジョリティーの声を引き出すためのクリエイティブ・マイノリティーにならなければならない」
- ◎ 「静かならざるマジョリティー」の運動とは？
 1. 従来バラバラであった諸集団が、ある特定の構造の下での従属・搾取の経験を共有していることを認識することによって、より広いアイデンティティのもとに結集する
 2. 社会の中のマジョリティーであるはずなのにそれまで不当に抑圧されてきたという意識をバネとして、数の力を背景としつつ諸種の要求を打ち出す
- ◎ 南アジアにおける例
 - ・ インド独立運動：独立を願っているのは「顕微鏡の少数」にすぎないのではないことを示そうとした
 - ・ パキスタン運動：ムスリム多住地域に国家樹立することにより少数派に甘んじることを拒否（？）

4

各報告の対象とする運動の 時代と位置関係

- ① 小嶋「植民地期インドにおける農民運動の再検討—社会運動論の視点から」
⇒主に1920s～50s
- ② 志賀「非バラモン／ドラヴィダ運動の評価をめぐる議論の整理」
⇒主に1920s～50s
- ③ 舟橋「アンベードカル以降のインドにおけるダリト運動の諸潮流の概観と論点の整理」
⇒主に1950s～2011

